

43

お名前 おかだ ますみ 岡田 眞澄	性別 男性	満年齢 75歳	終戦時の年齢 9歳	現住所 中宇利
-------------------------	----------	------------	--------------	------------

宇理国民学校4年生

- ① 8月15日は、どこでどんなことをしていましたか。
夏休み中で、母親の手伝いをして、畑で草取りをしていた。
- ② 終戦のことを、どこで、どのように聞かれましたか。
今日、ラジオで玉音放送があり、日本が負けたと隣のじい様から聞いた。
- ③ 敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子
「そんなことあるわけない」「隣のじい様はうそを言っている」と思った。母親に聞いても、自分と同じ思いで、家族はだれも信用しなかった。
- ④ 体験の中で、子どもたちに語り伝えておきたいこと
- ・私の子どもの時代（13歳まで）は、国のために命をささげることが人間の使命であると教えられ、そう信じ、そういう人間に育てられた。
 - ・私の少年時代（14歳～18歳）は、敗戦と戦後の混乱の時代で、中学生が強盗をしたり、チェーンを持ってけんかをしたりする時代だった。（食べ物はなかった）
 - ・私の成人式の頃から、社会が少しずつ安定に向かった。
 - ・30歳頃からテレビ、洗濯機、バイクなどが普及し始めた。
 - ・40歳頃から日本経済が発展の途上にのぼった。

※ 父親は、昭和20年8月14日、午前5時30分、長崎港で輸送船の甲板で、米軍機グラマン（P-126-参照）の機銃掃射で射殺された。

父親を失い、農地改革で土地を取られ、わが家は貧乏のどん底であえいでいた。幼心に、将来に夢を託し、歯を食いしばり、汗と涙の日々の中で少しずつ大人になった。

「おやじ！ と呼んでみたかった」 （講演記録集より抜粋）

私の不幸が始まったと思うのは小学校2年生、10月16日のことでした。その日、父親が戦争に行くために、兵隊にとられてしまったのです。召集令状（赤紙）が父親のところに来たのです。父は、30歳にして初めて軍隊に入ることになりました。軍隊に入るには、軍人勅語というのがあって、「一つ、軍人は忠誠を誓うことを本分とすべし」というようないくつかわらなくなくてはならない信条があり、これを言わせられ、これがすらすら言えないと、ぶんなぐられ、半殺しにされると言われていました。父は、軍人勅語の暗唱を始めました。毎晩毎晩です。母が本を持っていて、ここが違う、あそこが違うとスパルタ教育をしていました。私は、大変だなあと思いながら見ていました。

父親は、八幡神社でお祓いを受け、郷土の人々、学校の児童、生徒全員で見送られることになりました。「兵隊送り」といわれていました。そこであいさつをし、村の人や私たちと別れて軍隊に入りました。

父が再び故郷の地を踏むことはありませんでした。本当に、桜のようにいさぎよく、甲板の上で米軍のグラマンに撃ち殺されました。それも、運悪く、終戦の1日前の8月14日でした。父は火葬され、木の箱に詰められたのですが、終戦の混乱でいつまで待っても帰ってきませんでした。生きているのかも分かりませんでした。

しばらくして、親戚の人が、父が最後に手紙を出した長崎を訪ねてくれました。原爆の被害があった長崎で、奇跡的にも防空壕に残されていた父の名前が書かれた白い布で包んだ木の箱を見つけてくれました。親戚の人がしっかりと抱いて帰ってきてくれました。近所のお父さんや男の人が次々に帰ってくるのに、これを見た母親が、発狂しそうに泣いたのを覚えています。遺骨は仏壇に置かれていましたが、母親はぼくらが寝入ったのを確かめると、そっと仏間に入っていき、木箱を下ろして結び目を開いて、小さな紙に包まれた父の骨を手の平にのせ、そとななぞる数えるかのようにして泣いているのです。涙をぼとんぼとん落として泣いているのを、戸のすき間から見て、ハッと心を打たれました。

そうした日が何日か続きました。ある時、母が私に、「眞澄、ちょっとおいで。」と仏間に呼びました。母が堂々と布をといて、父の骨を出しました。「眞澄、これがお前のお父さんだ。こんなになっちゃった。」ぽろぽろ涙を流して泣くのです。私も、あの元気だった父を思い起こしながら、真っ白い骨に変わってしまった父に対面しました。これが父親の姿かと思うと、あまりの情けなさに涙も出ませんでした。今でも、そのカラカラという乾いた骨の音が思い出されます。父との別れは、これが最後でした。私は、一回でもいいから自分の口で、「おやじ！」そう言ってみたかった。



▲ 出征兵士の武運長久祈願 (写真集「新城」より)

出征兵士は家族と別れを告げて氏神に参拝し、武運長久の祈願を終え、拝殿の前で見送りの人々にお礼と覚悟を述べた。それから小学生の奏でる行進曲に合わせて歌う「出征兵士を送る歌」に送られて出征した。